

鶴岡市 地域振興のビジョンに基づく施策の推進

課題	事業名	事業費					27年度 事業内容
		H27	H26	H25	H24	H23	
地域振興に関する懇談会の開催	(仮称)地域振興懇談会運営事業	143万7千円	486万3千円	486万9千円	482万2千円	562万3千円	・各地域の課題等について協議し、その解決策や地域の活性化策について提言、意見等をいただきながらそれぞれの地域の振興を推進する懇談会を開催する。
地域振興計画の推進	地域活性化事業（藤島）	372万5千円	249万9千円	261万9千円	207万1千円	411万4千円	・都市消費者との交流等による人と環境にやさしい農業・農産物の理解促進 ・歴史公園のふじの育成・管理に取組むボランティア団体の育成支援及び案内標識修繕 ・庄内農業高等学校と地域、関係団体等が連携し取組む地域活性化に向けた事業への支援 ・市内各地の伝統芸能が一堂に会する鶴岡伝統芸能祭を開催する事業への支援 ・インターネットの検索機能を活用した庄内平野の情報発信
	地域活性化事業（羽黒）	230万2千円	217万1千円	298万5千円	291万6千円	354万5千円	・松ヶ岡地域の歴史的建造物活用懇談会への支援、松ヶ岡創造センターの組織化及び地域活性化に向けた取組への支援 ・出羽三山の精進料理を地域内外へ広くPR、宿坊街に誘客を図る事業への支援 ・月山高原ハーモニーパークへの集客促進 ・映画ロケ誘致や映画を活用した誘客事業の支援及びオープンセットと他の観光施設の周遊ルートマップ作成
	地域活性化事業（櫛引）	225万3千円	235万4千円	232万7千円	461万2千円	293万円	・フルーツの里づくりに向け観光果樹園や直売施設、観光施設等の連携促進への支援 ・JA青年部が行う都市農村交流と農産物の販路拡大に向けた事業への支援 ・黒川能鑑賞者向け共通宿泊メニュー開発等に取組む農家民宿に対する支援 ・くしびき夏のイベントの開催支援 ・黒川能の後継者育成、保存伝承研究会開催に対する支援
	地域活性化事業（朝日）	321万5千円	188万円	197万5千円	275万円	326万円	・大鳥池におけるヒメマスの放流 ・大鳥～上田沢間の人の移動支援、農産物の集荷から産直までの物流支援、高齢者等への買い物支援を組み合わせたビジネスモデルづくりの実験事業 ・朝日地域の行事日程や伝統風習、自然景観等を掲載した地域振興カレンダーの作成
	地域活性化事業（温海）	651万2千円	220万円	110万2千円	209万9千円	521万1千円	・焼畑温海かぶのブランド力を更に向上させる取組への支援 ・小国交流促進センター及び楯山荘を活用した都市・農山村交流事業への支援 ・福栄地域協議会「福の里」が実施する体験活動等への支援 ・しなの花を活用した加工品の事業化に向けた取組への支援 ・観光コーディネーターの設置による体験旅行推進事業への支援 ・温泉街の情緒を演出する取組への支援及びあつみ温泉おもてなしまつりの開催支援
地域間の連携した取組の推進	地域間連携事業	280万円	408万3千円	708万9千円	567万円	-	・「せせらぎの能」や市内各地の伝統芸能を紹介するイベントの実施 ・由良と鼠ヶ岡地区が連携して実施する海洋資源を活用したツーリズム事業等への支援
地域活性化事業 合計		2224万4千円	1110万円	1401万円	1444万円	1936万円	

安倍「暴走」政治を止める 共産党の県議が鶴岡から必要です!!

旧町村の振興施策は 地域振興懇談会(仮称)を設置

合併特例法にもとづく「地域審議会」が10年間で期限切れとなり、新たに「地域振興懇談会」(仮称)を設置するとしています。

これまでの「地域審議会」は法定で、旧市町村の区域ごとに設置できるとされ、①首長の諮問に応じた審議又は必要な事項を首長に意見を述べる、②新市建設計画を変更する場合は地域審議会の意見を聴かなければならないとされてきました。

新たな制度でも、これまでの地域課題を審議する場の延長で、まちづくりの方針を決める決定権はありません。

地域活性化事業

地域振興ビジョンは、平成26年度に見直しされ、各地域振興計画が策定されました。

新年度の関係予算は表の通りですが、市の観光文化都市施策の一環として、羽黒地域の「出羽三山の精進料理魅力発信事業」33万円や、温海地域の「温泉街賑わいづくり促進事業」59万円、及び「あつみ体験旅行推進事業」372万円などの関連で、地域活性化事業の予算が膨らんでいます。

地域コミュニティ推進計画(仮称)

本方針に基づき、新年度に地域別の地域コミュニティ推進計画(仮称)を策定するとしています。

羽黒地域では公民館を地域活動センターへ、朝日地域はコミュニティセンターに移行します。

「高齢者が多くなり、後期高齢者が増えていきます」と、半径500mの範囲で生活しなければならぬ人が多くなります。

これは農村でいえば集落の範囲ですし、大都市圏でいくとおおよそ小学校区の範囲です。ここが基礎細胞になつて、それらが複合化して基礎自治体がつくりあげられているわけです。

大きくならずすぎた基礎自治体では、その中間に地域自治組織をつくり、団体自治と住民自治を結合していく必要があります。

こうした重層的な地方自治の仕組みこそが、地域格差の大きい日本に必要ななっていると思います。」(岡田知弘『自治体消滅論を超えて』自治体研究社)。

日本は「カナリア」で世界の少子・高齢化問題のパイオニア

渡前総合研修会でケリーさん講演



70年代後半は転換期にあった。圃場整備実
施・パイパス建設・機
械化移行などで、農業
基盤・生活基盤が変わ
り、それにもなつて
人間関係も変わった時
だった。

2月15日、「アメリカ
から見た庄内と渡前の
人々」と題して行われ
60余人が聴講しました。
40年前何故渡前に来
たか、私の見た渡前、
21世紀の10年代と40年
前の庄内の3点につい
て話されました。

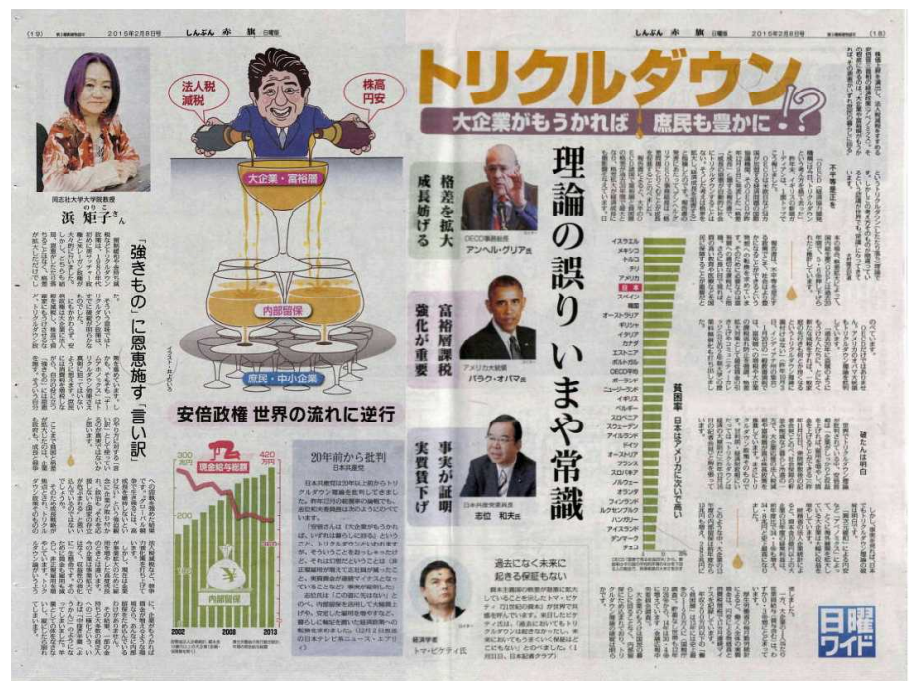
「40年前の庄内(19

アメリカに「鉱山の
カナリア」の話がある。
カナリアは鉱毒の発生
をいち早く察知し鉱夫
に知らせるのだ。

日本は少子・高齢化
問題がいち早く発生し、
世界のカナリアでパイ
オニアになつている。

40年前の危機は上手
に解決しようのだが、
今度はどうなるのか世
界が注目している。」

ケリーさんは、私に
も結婚していない28歳
の娘がいて、妻ルイザ
とともに頭を痛めてい
るーとおどけてみせ講
演を終えました。



アベノミクス幻想を捨てよう！ 根底の理論ートリクルダウン(大企業がもうかれば庶民も豊かに)は今や誤りが世界の常識

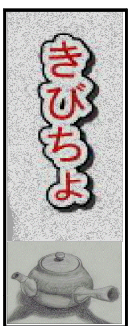
ー「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

赤旗日曜版2月8日号の特集である。安倍内閣の一定の支持率はこの幻想と思う。だから首相はこれを全面に出し、多くの国民がノーとする集団的自衛権・憲法改正を争点からはずして巧みに進める。それでこの記事を借りトリクルダウンの誤りを述べ、アベノミクス幻想を捨てて欲しいと思う。

先日来日したフランスの経済学者トマ・ピケティ著『21世紀の資本』が、日本で12万部、世界で100万部突破のベストセラー。「過去

にもトリクルダウンは起きなかつたし、未来にもうまくいく保証はない」と言う。オバマ大統領も「家庭もよくなるというトリクルダウン理論を裏付けるものはない」と言い、日本も加盟するOECD(経済協力開発機構)さえも、昨年12月9日「今日、トリクルダウンを捨て去つた」と発表している。

しかし安倍内閣は、「企業が利益を上げれば、雇用を増やし、賃



とんでもない国だぜ

俺は高校時代、日本育英会のお世話になつたんだが、この人は高校時代からのだろう。奨学金が返せないから個人破産するんだト。何人かいるとか。

▼大きな志を持ち将来に夢をかけ、大変な競争で大学に入り、就職戦争に勝つても生活していけない給料でこつたんだらう。

▼とんでもない国ではありませんか。これじや国の将来も危ういでシヨ。これが経済大国と言われ、中東に2億ドルもくれてやる国の現実なんだぜ。

▼一方では、下請単価をタタキ、株主には高率の配当をしながらも1年で2兆円を超える儲けを積み上げている会社があるんだ。

▼しかも、もつと儲けさせるため法人税を下げ、働く者には時間外手当を払わないよう法

金も上げられる」と首相が言い、甘利経済財政相は「トリクルダウンは経済の大原則」とさえ言う。トリクルダウンの原意は「滴り落ちる」である。滴りさえも落ちないでないか。内部留保は13兆円も増え285兆円、一方、年収200万円以下の「働く貧困層」は史上最高の1120万人、一例だが、一層の格差拡大でトリクルダウンの誤りを示す数値であらう。

律を変えるというのだぜ。もう1回言おう。とんでもない国だぜ。

▼どこがアベノミクスで景気が良くなっただヨ。大会社と一部の投資家と称する者が株で潤つてるだけじゃネーか。それだってバクチみたいなので損をすることもあるだらう。

▼どつちにしても汗水流して働いた者の暮らしが豊かにならなくチヤ景気も良くならないうだらう。だから子どもも増えないってこと。就職率は良くなったと言っけどサ。生活ができない待遇では困るんだヨ。

▼この上、国会決議をケトバシテ米国が喜ぶTPP妥結となれば米づくりや医者に懸かるのさえ不安がでてくる。右も左も真つ暗闇じゃございませんか、です。▼こんな世の中は真つ平御免ですヨ。早いトコ自公政治にサヨナラしようではございませんか。ナーみんなー。

(石川)